

植物園のかたすみから季節便り

4月



三月末日をもつて31年間勤務し、専門家が植物園で行つた環境問題

た大阪市大附属植物園(通称きさい

ち植物園)を卒業しました。

着任した1990年代、植物園が提供していた公開講座は春と秋

でわずか四回。存続の危機を乗り越

えるためにはどうすべき?研究をしていても、頭の中には常にこの問い合わせがありました。

2000年代に入り、園内に貴重なキシノウエトタテグモ(大阪府の準絶滅危惧種)や国蝶のオオムラサキが生息している事がわかり、多様性を育む大事な場なのかもと再認識。交野市と開催してきたフリードワーク中心の環境講座は園の魅力を発掘する機会でもありました。

森や草本植物やシダ植物、チョウやクモ、鳥や哺乳類など多様な分野の

元大阪市立大学附属植物園勤務 植松千代美
専門家が植物園で行つた環境問題
研究プロジェクト。成果をまとめた
「都市・森・人をつなぐ 森の植物園
からの提言」(京大出版会)は今も植物園を知る格好の書と自負しています。

園職員だけでなく多くの方々の協力により多彩な社会貢献事業を展開してきました。研究・教育と社会貢献事業は植物園にとって車の両輪。外圧があったとはいえ、2000年代に入つてからの20年間で植物園は市民に開かれた植物園に大変身。

私は無事お役目を果たせたでしょうが。今も植物園が存続していることが答えかな?

市民の皆さんにはこれからも植物園を訪れ、利用することで支えていただければ幸いです。